

たわわ

TAWAWA

NPO 法人地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2013年1月28日

129号

NPO 法人

「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

うれしさも 中ぐらいなり おらが春 (一茶)

多くの課題をかかえて新しい年へ



遠くに真っ白い雪を頂いて富士山や裾野に連なる山々が、
厳しくもすがすがしい冬の空気を伝えてきます。

横浜の港北、今年も新たな年を迎えました。

障害者たちにとっては、変わらぬ支援の方々の声が聞こえる幸せと、
ともすれば、ぶれそうな施作に脅かされる不幸せ...

今年はどうな年になるのでしょうか。

障害者の課題は、私たち社会全体の福祉を考える一つのバロメーターでもあります。
ぜひ、ご一緒に考え、支えて行ければと思います。

* * *

今年は、年明け早々国の内外にいろいろあったり、大雪に見舞われたり、波乱の幕開け
となりました。

これから、具体的に取組みねばならない活動も、目白押しですが（3月の新吉田地域
交流バザー、4月ごろの民生委員さんとの交流会、5月日吉地区あげてご協力いただく活
動ホームしもだ地域交流バザーなど）、みんなで頑張っていきたいと思います。

* * *

さて、横浜市では、以前に在宅心身障害者手当として、市から障害程度に応じて一律
支給されてきた手当を廃止し、変わって「将来にわたるあんしん施策」が始まったことは
皆様の記憶におありだと思います。ここでちょっと振り返ってみたいと思います。

この施策についてはアンケートや面談による意見聴取など、一応手順を踏んだ上で、“障
害福祉関連の事業に生かす”という約束で平成22年度から段階的に取組みが始まりま
した。

わずかな手当といっても、障害者の生活設計の中に入っていたものを削ることですから
少なからず、痛みを伴うことであり、誰もがもろ手を挙げて賛成できることではありませ
んでした。後退にすることはできません。身を削って次の福祉の段階を選ぶことになった

まだまだ寒い日が続いていますが、新しい年を迎え皆様にとって本年にご多幸がありますようお祈りいたしております。よつばホーム入居者のみんなも新たな気持ちで過ごしていきたいと思います。

1月14日の雪

1月14日(月)朝、降っていた雨がみるみる雪に変わっていく・・・。

子供のころは雪が降るとテンション上がりワクワクしましたが、今はマイナス面しかイメージ出来なくなりました。(笑)

前日の天気予報でも言っていたように雨から雪へ。徐々に道路にも積もっていく。完全にぼた雪にな、嫌な予感が現実となりました。

道路に積もりだしたころ、次郎さんとグループホームへ向かっている途中でした。運転しながらネガティブ思考に走ってしまうドライバーを横に、次郎さんは元気に歌っています♪ 「雪やこんこん♪あられやこんこん♪」

この歌ほんとは「こんこん」じゃなくて「こんこ」なんだよなあと思い出していたら笑ってしまい、ネガティブ思考からポジティブ思考へシフトチェンジ。車もシフトチェンジでセカンド発進！

(そして今後考えられる雪の影響についての対処などイメージしなくては。)

気象庁によると結果的に横浜は13cmの積雪でした。雪国と違い、横浜で雪が積もると電車やバスが遅延したり運休したり多大な影響が発生します。

例外なく、よつばホームの入居者にももちろん影響がでできます。

送迎どうしようか考えていると、横に乗っている次郎さんが「コジマいきたい♪焼きそば買いにいきたい♪コーナン行きたい♪」と話してきます。

ゞ(^o^;) オイオイ この雪の中...。「ん、さてよ。コーナン!？」

ってことでコーナンへ。まだ売り切れる前の午前中に雪かきグッズを購入！

次郎さんも満足し、何事もなくグループホームへ到着。

早速雪かきに追われる職員でした。(^-^;)

まだまだ雪が降る可能性があります。そしてインフルエンザ患者が急増しています。

みなさま、どうぞお気をつけください。

去年のクリスマス

昨年12月24日、よつばホームでもクリスマスパーティをしました！

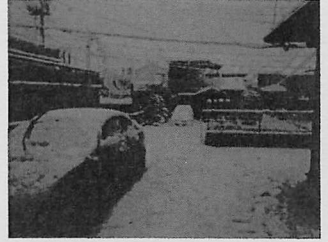
次から次へと運ばれてくるごちそうにスタッフは大慌て！

けれどもみんな顔はニコニコしています。

大きなピザ、サラダ、シャンパン、お寿司、ローストチキン！

そして今年はケーキががななんと、差し入れていただきました♪ありがとうございました！今年新しいメンバーの高村さんと過ごす初めてのクリスマスです。クリスマスの音楽を流し、みんなで楽しくごちそうをいただきました。

今年も楽しいクリスマスをすごしました。



めがねの声



◇毎月厚木まで“旅”？だった...

LIVEトークの会で紹介された映画のDVDを貸していただいて、見ました。男たちの旅路『車輪の一步』（編註*脚本山田太一 1979. 11NHK 放送）で、車いすの障害者たちの自立していこうとする物語でした。

まだ、障害者への理解がなく、駅も階段で、何の設備もないころ、住む部屋を探すのがなかなか見つかりません。誰も助けてくれない時に、一生懸命力を貸してくれた人たちがいました。

障害者の仲間たちは、皆で外に出て、なかなか外に出られない人を連れ出そうとしますが、その人もお母さんも「外に出ると必ず嫌な思いをするから」と、怖がってなかなか外に出られません。「迷惑をかけたっていいんだよ」と言ってくれる主人公に励まされて、障害者の仲間の皆も、何度も何度も努力してようやく外に出るようになりました。

彼女は、やっと通る人たちに声をかけて頼んで、駅の階段を車いすで上げてもらうことができました。自立の一步でした。

* * *

私も同じだったなと思ってみていました。

私は、養護学校を卒業して、七沢のリハビリテーションセンターの更生施設に少し入った時、「仲間づくりの会」にはいりました。この時、母もいい会だからと言ってくれて、横浜に帰ってからも参加することにしました。

親と一緒に、だめだということで、私はボランティアさんのともだちや、活動ホームの職員を頼んで、毎月厚木まで、腕の時計を見ながら通いました。

いつも「旅行のようだね」と言いながらいきました。

それは、まず、東横線は乗りやすい妙蓮寺駅から乗り、乗換駅の菊名駅の階段が大変なので、一度、昇降機のある桜木町駅まで戻り、そこで乗り換えてまた厚木までゆくのでした。遠回りでした。寒いころになると早く暗くなり、母が待っている駅に着く頃はもう、いつも夜になっていました。皆忙しくなって、会はずれましたが、とても懐かしい思い出です。

このごろは、バリアフリーも進んで、福祉の仕事は、作業所や活動ホームがありますし、暮らすところも、グループホームも多くできるようになりました。出かけるのも、仕事でヘルパー制度もあります。駅や、段差や外のトイレや、だんだん整ってきて、とてもうれしいけれども、大変さが少なくなったのに、なんだか少しさみしい気がします。

なぜなのでしょう... !?

皆で階段を持ち上げてもらったり、声をかけてもらったりしたことが懐かしいのです。

これまでの長い一日一日があって、励ましてくれた皆がいて、変わらず今の私の生活を見守っていてくれるから、頑張れる気がします。

大原友子

のでした。 障害者や家族はずっと昔から、ほとんどの人にとってよいほど「将来に対して 安心できない」という悩みを抱え、それを解決しようと活動する中で、ほとんど何も無いところから、わずかな助成金を頼りに、現在の横浜の障害者福祉を作ってきたのですが、医療、住まい、人手の問題などまだまだ不十分です。

また、いろいろな制度が届かず困っている人もあります。横浜市は、「誰もが安心して(親亡き後でも)暮らし続ける事ができる仕組みづくりのために使う。『信じてほしい』』とって始まったプランでした。

事業は、以下3系統およそ16項目にわたり、試行的にモデル事業を実施する区を決めながら展開されてきました。

■親なき後も安心して地域生活が送れる仕組みの構築

○後見的支援の充実 (後見的支援推進事業、多機能型拠点の整備、緊急ホットライン)

■障害者の高齢化・重度化への対応

○住まいの場の充実 (ケアホーム・グループホーム支援体制の強化など)

○医療的ケアの対応

■地域生活のためのきめ細かな対応

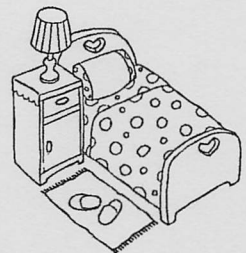
○医療従事者の障害理解の促進

○入院時のコミュニケーション支援

○総合的な移動支援体系の再構築

○その他地域生活のためのきめ細かな対応

(入所施設による地域生活支援の強化、精神障害者の家族の支援、地域活動ホームの機能の充実 等)



このうち、港北区では、社会福祉協議会が委託され、移動支援のモデル事業に取り組みました＝「お出かけG.O!」＝その中で、障害者やまだ学齢期の障害児にとっても、この移動つまり日常の送り迎え、外出などに対する支援の大切さが浮かび上がってきています。来年度は、港北区でも後見的支援への取り組みが始まります。いろいろ目に見えにくい部分もありますが、大切に育ててほしいと思っています。

また、地域活動ホームは「NPO法人げんき」として現在3館が連結連合し活動をしていることは、この通信でもお知らせしているとおります。

* * *

NPO法人「げんき」は、まだ発足してより1年半になろうとしている段階ですが、活動ホームでのデイサービスや、地域生活支援などのほかに、地域の中で運営されているいくつかのグループホームの支援など検討する必要がある課題が次々とでてきています。

「たわわ」前128号でもふれましたが、活動ホームしもだへは、関連グループホームよりB型へ移行するにあたっての要望書が出され、3月の運営委員会で前向きに話し合われることになっています。

その際、私たちの支援する「よつばホーム」「第2よつばホーム」は、B型への移行は、もう少しの間遅らせ、「しもだ」との連携はこれまで以上に緊密にしながら、これからの高齢化や緊急時に対する対応なども、皆で丁寧に検討を深めていきたいと思っています。